編集後記・Editorials

魚類学雑誌
53(1): 115

魚類学雑誌53巻1号では総説1，本論文5，短報4，合計10編の論文が掲載となりました．論文だけでも約100ページと，読みごたえのある号です．これもひとえに会員のみなさまの活発なご投稿のおかげと感謝をしています．渡辺勝敏さんら12名の著者による日本産淡水魚に関する総説は，淡水魚研究を志す若手にとって必読の文献の地位を占めると確信をしています．今後も野心的な総説が掲載できるよう，編集委員一同，努力をしてまいります．

本号から「年会開催のお知らせ」が大幅に簡素化されました．「講演要旨の書き方」や年会会場の案内の印刷をとりやめ，魚類学会ホームページにそれらの内容を移行しました．これは昨年度の年会申込みでのネット利用状況や経費の削減などを勘案して取り決めた措置です．ネット環境を利用できない方への配慮もしてありますので，会員のみなさまの利便性が損なわれることはないと判断していますが，なにかご意見ありましたら，遠慮なくおよせください．

これまで本誌に載せてきた *Ichthyological Research* 掲載論文の和文要旨も印刷をとりやめ，学会ホームページに移行することにしました．英文誌は年4号，和文誌は年2号の発行ですので，英文誌の掲載号によっては（1号と3号）3ヶ月程度の待機時間が生じていました．今回の措置によって時を等しくした発表が可能となります．また，このスリム化には限られた予算でより多くの論文を掲載できる利点もあります．

「魚類学雑誌投稿規定」が若干変更されていますので，ご注意ください．「1．投稿者」が「1．著者」になり，著者に少なくとも1名の会員を含めば，会員以外の方でも投稿が可能となりました．「5．投稿原稿」では著者が校閲者候補を推薦できる旨，明記されています．その他，著作権の移譲に関する規定が新たに加えられています．

本会名誉会員の益田　一さんが他界されました．本誌52巻1号の「先達に聞く」でお元気な姿を拝見していただけに，新聞で逝去の報に接したさいには信じられない思いでした．瀬能宏さんが追悼の記事をお寄せくださいました．故人の知られざる側面が語られています．どうもありがとうございました．合掌．

（佐々木邦夫）